



発行／青森県立自然ふれあいセンター 〒038-1301 青森県青森市浪岡大字大釈迦字沢内沢 1-1
 TEL 0172-62-4527 FAX 0172-62-8510 URL <http://www.bonjyu-furesen.info/> メールアドレス bonjyu@jomon.ne.jp

□ 行事レポート □

- センター開設記念行事
「蔦沼ツアー」 7月2日(土)



- 夏休みスペシャル・クラフト体験
7月22日(土)



- 世界遺産写真展
9月1日(金)～9月30日(土)



- 白神で遊ぼう！
(世界遺産登録30周年記念) 7月22日(土)



- 白神の森遊山道トレッキング
(世界遺産登録30周年記念) 8月27日(日)



- 秋の梵珠トレッキング
(少年自然の家～梵珠山) 9月24日(日)



● ホツツジ

齋藤 信夫 (青森自然誌研究会)

梵珠山の植物観察会のおり、サワグルミの道を六角堂まで歩いた。私はシダ植物について少々の解説をしながらゆっくり歩いていた。種子植物の花や果実も意識しながら探していると、ムラサキシキブが花を咲かせ、ナツハゼはすでに果実を披露していることに気づいた。ムラサキシキブの花は葉の葉腋にかたまつく。一方、ナツハゼは今年伸びた枝の先端に総状につく。そのため、ナツハゼの果実は穂のように並んでいる。そんな様子を眺めながらも「もう、そんな時期か」と思われた場面があった。それはホツツジに花穂が伸び始め、じきに咲くように膨らんだ蕾を確認した瞬間だった。

ホツツジは名前のように小さな花が穂のように円錐状にまとわりつく。梵珠山では観察路沿いのいろんなところで目にするが、どちらかという、やや乾燥気味の尾根筋や、斜面の上部などで目にする機会が多い。私がよく利用する道では、サワグルミの道の1合目から3合目当たりの斜面、あるいはマンガンの道の2合目から陸奥湾展望所あたりくらいまでの斜面だろうか。いずれにしても木の高さは大きくても2~3mほどで、ブナやミズナラなどの林の下に生える低木である。

ところで、フェノロジーという言葉がある。日本語では生物季節と訳されているというが、植物について言えば、季節の移り変わりに従って、発芽、芽吹き、開花、紅葉、落葉などの変化を、気

象や気候などの面からとらえる学問ということらしい。自然ふれあいセンターが作成した「梵珠山ガイドマップ」の中の「梵珠の花ごよみ」の内容が該当すると思う。そこにホツツジは扱われていないが、きっと芽吹きの遅い樹木のためだろう。梵珠山でのホツツジは5月上旬~中旬にかけて冬芽が動き始め、まず葉を広げる。6月中旬ころまでにはすっかり葉を広げてしまうが、見た目には花穂はまだ動き始めていない。そして、7月上旬ころになると次第に花穂らしいものが確認でき、7月中旬から下旬にかけてつぼみが膨らみ開花へと続く。そのような変化は、同じツツジ科のムラサキヤシオツツジやヤマツツジなどに比べると、かなりゆったりした開花への道のりである。

ホツツジの花は、細長い楕円形の白っぽい花びらを3枚持つが、花びらは開花すると反り返る。そして、柱頭が長く突き出る。まるで花から細長いトゲが出ているようにさえ見える。そんな姿だからムラサキヤシオツツジやヤマツツジなどの花とは異なる印象を与える。

これまで、蕾や花、あるいは果実などの写真を撮ろうとたびたび覗きこむことがあったが、ほとんどの場合、花穂には蜘蛛の糸のようなとても細かい糸が絡んでいて、なかなかホツツジだけの写真にならないことが多かった。これも自然界の摂理であろうか。



ホツツジが一斉に花を咲かせた。(2021年8月20日)



ホツツジの果実割れて種子を放出しているものもある。(2021年10月21日)

生物暦 (2022年)										10月		☀️☁️☔️: 天気		植物 野鳥 動物 昆虫 は虫類・両生類																	
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
観察できたもの	ノシメトンボ・エナガ	カケス・ゴジュウカラ	フユノハナワラビ	キツバト	シジュウカラ・コマドリ	サラシナショウマ・コマナ	ミソサザイ	ツノアオカメムシ	オクトリカブト・カケス	キクガシラコウモリ	アキアカネ	アオダイショウ	ムラサキシキブ・マムシ	シダクロスズメバチ	ヤマカラ・ゴジュウカラ	クマタカ・オツネトンボ	ノブドウ	アカスジキンカメムシ	アサギマダラ	ツマジロカメムシ	ルリタテハ・ヤマカガシ	オニヤンマ・ヤマアカガエル	ムラサキシキブ	オオトビサシガメ	ニホンザル	ニホンザル	コガラ・シジュウカラ	アナゲマ	ホンドテン	アトリ	タニタテ
天	☀️	☀️	☀️	☔️	☔️	☔️	☔️	☀️	☀️	☔️	☔️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☔️	☔️	☔️	☀️	☀️	☔️	☔️	☀️	☀️	☔️	☔️	☔️	☔️	☀️

●ギンリョウソウ [銀竜草] 別名ユウレイタケ イチャクソウ科 長尾 キヨ (津軽植物の会)

この花と出会ったのは数十年前である。薄暗い山道を歩いていた時、残雪と見まがうほどまっ白なかたまりがあった。全体が純白で草なのかキノコなのか見当がつかない不思議な姿にびっくりしたのを覚えている。

ギンリョウソウは山地の他の草が育ちにくいような日陰に生える奇妙な形の草で、地上に出ている部分は純白である。根は褐色で地中にかたまりになる。「腐生植物」といって腐った落ち葉などから養分を取り入れているのである。

草丈 8 ~ 15 c m。茎はまっすぐに立ち、1 株から数本ずつ出る。葉は互生し、白色半透明で鱗状に何枚も重なって茎についている。花茎の先に包葉に包まれた花を下向きに 1 個つける。花びらは筒形で長さ 1.5 c m、3 ~ 5 個つけているが内側がへこんでへら状になり、つけねのところはいくらかふくらんで袋状となって蜜がたまる。おしべは 10 本 (私が解剖したのは 13 本) あり花茎には

毛が生えている。めしべはとっくり形で花柱は太く短く青紫色を帯びる。実は球形でまっ白である。茎が地上に倒れると、実はつぶれて種をまきちらす。

和名は銀竜草 (ギンリョウソウ) で、花を頭、茎を胴、葉を鱗にみたて銀色の竜が首をもちあげた姿になぞらえた。別名の幽霊草 (ユウレイタケ) は、暗い所に白衣をまとった幽霊のようなキノコを思わせることによる。

令和 5 年 7 月 2 日 (日) センター開設記念行事「蔦沼ツアー」が開催されました。抽選による 20 名の参加者と約 3 km の遊歩道を巡りました。ギンリョウソウが最盛期で、どこへ行ってもたくさん観察でき、中には 30 本程のかたまりのものがあつたりでびっくりでした。蔦沼はギンリョウソウの宝庫です。



ギンリョウソウ

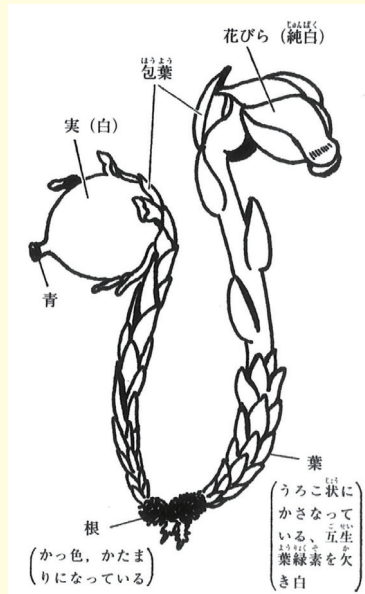


Table with 30 columns (days of the month) and 3 rows (weather, observation, and biological events). The table lists various plants and animals observed during the month of November 2022, along with weather icons.

